



お賽銭箱をかついでお賽銭を呼びかける子どもたち

事例の概要

橋本駅近くの宮上地区にある東橋本第1自治会と東橋本第2自治会は、昭和39年に小山市町自治会が分割してできた4つの自治会のうちの2つで、京王相模原線を境に隣接しています。そのため、両自治会の関係は深く、現在でもいろいろな場面で協力して活動しています。

その中でも最大のイベントが夏まつりです。もともとのこのまつりは、宮上地区全体のまつりとして住民の交流を深めるため昭和22年から始められた歴史あるものです。現在は東橋本第1自治会と東橋本第2自治会、そして共同の子ども会であるひがし子ども会の3つが合同で開催しています。



子ども会新聞

2つの自治会で つくりあげる夏まつり

特徴・ポイント

両自治会は、お互いの交流を深め、かつ、お互いを尊重しあう、という「協調の精神」を掲げており、夏まつりはその見せどころとなっています。数日前からの準備では、実行委員のほか、両自治会と子ども会の役員、中学生の子どもを持つ親子などが集まり、万灯や花飾りなどを作り、子どもたちは、お

年寄りにお囃子や地域住民の多くの方々と共に盆踊りを習うなど、交流を深めながら準備を進めることで、本番へ向けて一体感を高めています。当日の準備でも、長年ともに活動してきただけあり、自然と役割分担がなされスムーズに作業が進んでいました。また、まつりでは大人たちだけで

課題・展望

このように2つの自治会で協力しあい、子どもたちも含めてまつりをつくりあげていますが、今後に向けての課題もあります。まつりをひびびる自治会役員をはじめとする実行委員の多くが退職者であり、高齢化が進んでいることです。現在は経験を重ねた人たちによって支えられていますが、このまま高齢化が進めばまつりを担う人がいなくなってしまうかもしれません。まつりをはじめとした自治会活動を今後も継続させるためには、次世代の育成が急務で

しかしながら、根本的な問題として、次世代を育成する以前に、活動自体に参加してくれる現役世代の人たちがあまりいないのが現状です。次世代育成につながるためにも、まずは自治会活動そのものに参加してもらうことが必要です。

体験・取材した職員から一言！！

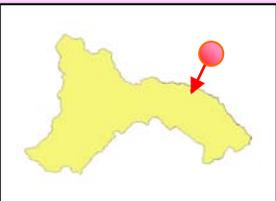
今回の取材を通して、2つの自治会がお互いを尊重し協力しあうことで、祭りを成功させようとする姿勢が印象的でした。しかし、現在がうまくいっている一方で、将来の活動の担い手不足に不安を感じている実態も分かり、自治会運営の難しさを実感することが出来ました。(拠点整備課 一本鎗)

準備段階から参加させていただきましたが、2つの自治会がやっているとは思えないほど自然で、一体感が感じられました。地域のおまつりはこどものとき以来参加していなかったのですが、今後も大切にしていかなければならないと思いました。(環境対策課 笹野)

2つの自治会で開催していましたが、誰がどちらの自治会の人か分からないほど、一緒になって祭りを運営していました。準備から祭り当日まで取材させていただきましたが、かなり重労働で、毎年開催していただいている自治会の方々に感謝です。(文化国際課 齊藤)



団体の基礎DATA



団体名◇東橋本第1自治会
東橋本第2自治会
創立年◇昭和39年
加入世帯数◇第1:650世帯
第2:155世帯

代表者名◇
第1:古川俊夫さん 第2:原照司さん



問い合わせ→
東橋本第1自治会:
会長古川俊夫(773-1580)さんまで
東橋本第2自治会:
会長原照司(772-0714)さんまで